

テーマ
家族 = テキ? ミカタ? シエンシャ?
それとも…?

日時: 2025年9月28日(日)

13:30 開始 - 16:30 終了予定 (受付 13:00)

場所: 東淀川区民会館 (東淀川区東淡路 1-4-53)

参加費: 1000円 要参加申し込み(裏面)

当事者家族とは、あなたにとって何者なのか?

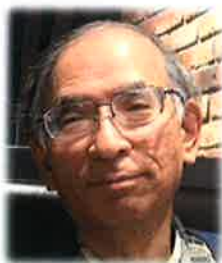
当事者が自立生活を獲得していくにあたって、最大の敵は親だ…そう言われたことがありました。当事者が学校卒業後に行けるまともな場所はなく、家族が作業所を立ち上げた…そんな時代もありました。

当事者に最も近い存在とされる親。ライフワークのように子の生活に心血を注ぐ親。親亡き後を心配する親。子の年金を当てにする親。入所施設に入れて疎遠になる親。お世話になっているからと福祉労働者に本音を言えない親。親と同じような支援を福祉労働者に求める親…

同時に当事者の兄弟たちにもそれぞれの思いがある。

全てを家族が背負う時代から、少しは福祉制度の「整備」(?)が進んできたいま、当事者家族とは、あなたにとって何者なのか? 支援の協力者であれば、それでよいのか?

事例報告と塚崎さんのお話をきっかけに、みんなで考えてみませんか?



講師: 塚崎 直樹 氏

精神科医。1949年生まれ。1998年、「つかさき医院」開設。2021年、医院閉設し、心の病とつきあっておられる当事者の方の活動団体「笑う家」立ち上げ。京都精神保健福祉推進家族会連合会、元会長(現在、顧問)。2024年、当事者家族の会「あかとんぼ」立ち上げ。著書、『虹の断片——精神科臨床医、四八年の経験から』(新泉社、2021年)、他多数。特技(?)、ダジャレ

スケジュール

13:00 受付開始

13:30 開会 主催挨拶

◆ 現場からの報告

・渡部 菜美

・神門 雄一

休憩

講演 塚崎 直樹 氏

休憩

◆ グループトーク

質疑応答

16:30 終了

報告者プロフィール

○ 渡部 菜美

生活介護とグループホームの兼務職員

2009年よりえんぴつの家勤務。

○ 神門 雄一

現在グループホーム勤務。

今回話す内容としては、30年前から地元運動体(家族など)と共に歩み続け、現在に至るまでを振り返り、家族さんから学んだことに、今後の支援の在り方を、見出している話しができればと思っています。

FAX:078-252-0322

(問い合わせ電話兼用 担当:山田・渡部)

参加申込書

※氏名	(20・30・40・50・60 歳代以上)		
住所 (自宅・職場)	〒		
連絡先 (自宅・職場)	※電話番号	※FAX	
	メールアドレス		
※自己紹介 (職業・活動 etc.)			
所属団体			
●ご質問などあれば、お書きください。			
※懇親会参加について ☐参加希望 ☐不参加			

※は必須事項でお願いいたします。



📍: 会場

「東淀川区民会館」 大阪市東淀川区東淡路 1-4-53

阪急京都線「淡路」駅 約 700 メートル

JR おおさか東線「JR 淡路」駅 約 950 メートル

大阪シティバス「東淡路 1 丁目」停留所 約 400 メートル

※スポーツセンター手前奥の建物です。東淀川複合施設 (スポーツセンター) の案内通りにお越しいただければわかりやすいです。

◆参加申込先

メール: epoepo@aroma.ocn.ne.jp

「支援者ネットワークえぼ」

神戸市中央区南本町通り 5-2-21

えんぴつの家気付

◆当日連絡先

090-3941-5749 (山田)



主催 : 「支援と関係性を考える」支援者ネットワークえぼ